

2017年6月2日

「山口レポート下書き」と教員コメント

自分が取り組みたいレポート課題は、山口先生の課題である。その理由は、総合科学入門講座の目標である、**論理的思考力の養成と物事の多面的理解に適したテーマ**だからだ。社会的な課題をデータから考察するだけでなく、その問題の背景を読み取り、解釈する能力を身につけることが重要である。

コメント [y1]: もちろん、そのとおりですが、これはあなたの学習の目標です。このテーマを考察することが、「社会的に見て重要な意味を持つ」理由についても考えてください。

現時点での構想は、まず、**刑法犯総数のグラフに山ができた理由を考察し、警察が犯罪を認知するようになったという解釈について書く。**次に、**1999年の桶川ストーカー殺人事件に対する警察庁の通達、「犯罪等による被害の未然防止活動の徹底について」**を調べる。そして、自分の仮説と反対の可能性について根拠を示し、結論を書く。

テーマの選択理由

犯罪は、社会において秩序を乱す要素で**会える**あるのは間違いない。

しかし、犯罪にも重大なものもあれば、軽犯罪といわれるものもある。

軽犯罪だから重大ではないというわけではなく、**犯罪そのものに対する意識や対応が社会の秩序に影響を与える。**

そこで、**1999年の通達により、犯罪への意識**がどう変わったのかを、考えることが必要である。

コメント [y2]: 誰の意識ですか？

調べる事

犯罪認知件数と実際に起こった事件との差(実際に事件が起きて、どのような過程を経て、犯罪として認知されるのか。)

グラフにできた山は警察庁の通達(犯罪等による被害の未然防止について)の影響だとみられるが、**通達がどのような作用をしたのか。**

コメント [y3]: それは明らかでしょう。むしろ検討すべきは、「実際に犯罪が増えた」という仮説を否定することです。

必要なデータ

実際の社会での犯罪への意識(犯罪認知件数の増減、**実際に起きている犯罪**と犯罪認知件数の割合など)

犯罪の重大さは変動していないのか(社会での重大犯罪への危機意識など)

軽犯罪の件数はへんどうしたのか

コメント [y4]: 「実際に起きている犯罪の件数」を調べることは、とくに軽微な犯罪については、不可能です。

コメント [y5]: 警察庁の犯罪統計を見ればわかります。しかし、なぜ「軽犯罪」の件数を調べるのですか？

このテーマを選択した理由は、犯罪は、私たちの意外と身近なところで起こっているからです。いっどこで起こるか分からない犯罪を普段から「考えておく」ことは必要で、この問題を真剣に考えることで、「マスコミの報道に簡単に騙されない」ようにする力を身につけることが大切だと考えたからです。

私は、解釈2の「警察が犯罪を認知するようになった」を採用します。その根拠は、1999年の「桶川ストーカー殺人事件」の件があることです。それまで警察は、事件にすることではないと放置していたのに、「重大な犯罪になると、急に1つ1つを捜査する」ようになります。それまで事件として扱っていなかった細かなことも認知するようになったので、解釈2が正しいと考えました。

解釈1の「実際に犯罪が増えた」が誤りである根拠は、急に2003年にかけて犯罪が増え、またすぐに減ることは「ありえない」からです。好況や不況に関わらず、犯罪数はほとんど変化しません。むしろ「最近の犯罪は減少傾向にあります。さらに、認知件数は増えても検挙件数は変わらない(警察庁統計データより)ので、解釈1は誤りであると考えました。

よって私は、グラフに山ができた理由は「警察が犯罪を認知するようになった」からだと解釈しました。

「犯罪認知件数」が多いと聞けば、この言葉について知らない人の多くは犯罪認知件数が多い地域ほど治安が悪いと思ってしまいうだろう。治安が悪いと言われれば他の地域から集まる観光客は自分の身を守るために、少なくなってしまう。私は2020年に東京でオリンピックがあるということに注目した。前回のリオデジャネイロオリンピックでは「リオデジャネイロは治安が悪い」と散々テレビのニュースで報道されており、日本も「治安が悪い」と放送されれば今後の訪日観光客の数に影響すると思ったからだ。2003年ごろに犯罪認知件数が上昇、その後下降した理由を知ることができれば、「認知件数を低く抑えられ、安全な日本をもっとアピール」できると考えたからである。

私は二番の警察が犯罪を認知するようになった、という解釈で考察しようとしている。しかし、「桶川ストーカー殺人事件」を調べられていないため、まずはそこから始めたい。

私は、2の考え方「警察が犯罪を認知するようになった」という解釈のもとグラフに山ができた理由を考察していくつもりである。(警察の方針変化:88年の警察長官の訓話。日本は自転車盗など小さな事件を解決することで、無理やり検挙率を高くしていたが、そんなつまらないことよりも別のことに力を入れろと言った。被害者意識希薄で軽微な事案に不相応な労力を割くべきではなく、真に住民が不安感を持つような悪質性の強い犯罪の検挙に重点を志向する。桶川ストーカー事件の影響:1999年10月に起きた事件の被害者は、被害

コメント [y6]: 犯罪の何について考えておくのか、具体的に。

コメント [y7]: たとえばどのような報道に騙されると、どのような不都合が生じますか？

コメント [y8]: 重大な犯罪については、警察は通達があるうとなかろうと認知し、捜査します。

コメント [y9]: 「認知する(被害届を受け取る)」ことと、「捜査する」ことは別です。

コメント [y10]: なぜありえないのか、理由を説明してください。

また、単に「ありえない」と断定するのではなく、「犯罪の発生件数が増えていない」ことを推定するためには、どういうデータがあればよいか、考えてみましょう。つまり、実際の発生件数と認知件数がかなり近いような犯罪はどんな犯罪でしょうか？

コメント [y11]: いつからいつの期間ですか？

コメント [y12]: 良い着眼点の一つです。

コメント [y13]: 「認知件数を抑える」とは、要するに、犯罪についての被害届を警察に出しても受け取ってくれないということですよ。

届を出していたにもかかわらず、警察は事件として処理しなかったため非難が殺到。民事不介入の原則により従来は受け付けていなかった対人関係のトラブルのような事件も、警察が処理するようになった。これにより、強盗、恐喝、の認知件数が急増、検挙率が低下。(樋口直人のレジメより)社会学の講義で犯罪の認知件数や、暗数について学んでおり自分の理解が間違っていないかを試す良い機会であるため犯罪認知件数についての考察をする。警察の方針の違いで犯罪認知件数は大きく増減する。桶川ストーカー事件前後で大きな山が出来ているのも警察の方針である。私が現段階で考えている構想は、起で新聞やニュースを見ただけで犯罪が増減していると考えるのは浅はかな考えであることについて書く。承で2を選ぶので樋口先生の講義とまだ探せていないが警察の方針についての論文を一つ参考にして書く。転でセクハラなど昔は認知されていなかった犯罪が増えていることによる増加について肯定しつつ、警察の方針による増加が1番の原因であることを樋口先生と警察の方針についての文献で書く。結桶川ストーカー事件の前後で強盗、恐喝などの犯罪が大きく増減していることを元に警察の方針によって新聞やニュースの殺人件数は変化していることについてまとめる。これらは、現段階での構想であり実際に書いていくうちにより良いと思われる方向で書いていくため変更の可能性は大きくある。

コメント [y14]: レポートでは、授業のレジメではなく、そこで引用されている出典(一次資料)の方を参照しよう。

コメント [y15]: コメント y1を参照。

コメント [y16]: コメント y3を参照。

1) 〈このテーマが重要である理由〉

最近一つひとつの犯罪が凶悪化してきているから。

(解釈 12 のどちらを採用するか)

私は、2を採用する。ヒントにもあるように1999年の桶川ストーカー殺人事件によって、警察の事件基準が変わったのではないかと考える。

2) 自分の仮説を支持する根拠

桶川ストーカー殺人事件が起こったことにより、ストーカー規制法が制定された。ストーカー規制法により、「親しい間柄の人からの付きまとい」「婚姻関係にある人からのDV」などの「民事不介入」として今まで事件とされなかったことが事件として検挙された。

3) 別の可能性を否定する根拠

認知件数の高い殺人で人口10万人における発生率を比べてみると、

1926年 4.14

1945年 1.27

2000年 1.10

2016年 0.70

とだんだん減っていることが統計的に分かるから。

(<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%97%A5%E6%9C%AC%E3%81%AE%E7%8A%AF%E7%BD%AA%E3%81%A8%E6%B2%BB%E5%AE%89%E5.88.91.E6.B3.95.E7.8A.AF.E7.BD.AA.E7.99.BA.E7.94.9F.E7.8E.87.E3.81.AE.E6.8E.A8.E7.A7.BB> 2017/6/4 アクセス

コメント [y17]: 根拠は？(事実として間違いです)。

コメント [y18]: それだけではありません。実際に「通達」の文書を読んでみましょう。

コメント [y19]: 「認知件数と実際の発生件数の差が小さいと考えられる」ということです。良い着眼点の一つです。

コメント [y20]: ここから、どうして「実際の犯罪の発生件数は増えていない」と推定できるのか、もう少し詳しく書いてくださいね。

ス)

4)結論

従って、1)、2)、3)より 2)の方を採用する。

レポート構想

起

テーマが社会的に重要である理由...認知件数と犯罪件数の関係を知ることによって社会をより正しく理解することができるから。解釈の採用...1) 警察が犯罪を認知するようになったが正しい。

承

1)を選んだ根拠...桶川ストーカー事件で被害者が被害届を出していたにもかかわらず、事件として処理しなかった警察に批判が殺到したことをきっかけに再発防止のために警察が「犯罪等による被害の未然防止活動の徹底について」という通達をし、従来は受け受けていなかったものも事件として警察が処理するようになったため、犯罪認知件数が増えたから。

転

2)が誤りだと考えられる根拠...今まで警察が事件として扱っていなかったものが通達によって扱われるようになっただけで犯罪の件数は変わっていないから。

結

認知件数だけでは犯罪の多い少ないはわからない。

調べなければならないこと

犯罪認知数と実際の犯罪件数に関係はないことを示すために犯罪の暗数調査のグラフを調べる。

「犯罪等による被害の未然防止活動の徹底について」を調べ、理解する。

私が選んだのは山口先生の課題です。現段階で調べたことは桶川ストーカー事件についてです。この事件はストーカーをされていた女性が警察に相談しても事件として扱ってもらえずに最終的に殺されてしまうという事件です。これによって、これまでは民事不介入の原則によって受け付けてこなかったトラブルのようなものも警察が処理するようになったため認知件数が増加しました。調べなければならないことは、2003年頃から認知件数が下がっている理由と認知件数が多いときと少ないときの良いことと悪いことを考えていきたいです。今の段階で私の解釈は2)です。

コメント [y21]: 具体的にどういう側面について、どのように理解するのか。そのように理解することが、どうして必要なのか、といったことまで書いてくださいね。

コメント [y22]: 「2)」のまちがいでしょう。

コメント [y23]: このことをどういうデータで示すのか、が重要です。

コメント [y24]: 誰がどういう調査をしていますか？

コメント [y25]: コメント y1などを参考に、選んだ理由を書いてくださいね。

コメント [y26]: どういうことですか？それを調べることで、どうして「仮説1」が間違っていることが示されるのでしょうか？

私は山口先生の課題を選ぼうと思う。グラフの山の部分で実際に犯罪が増加したのか否かを知ることは、なぜ犯罪が増えたのか、あるいは認知される件数が増えたのか、またどのようにしてそれらが減っていたのかを探ることであり、これからの犯罪防止及び抑圧に役立つ。

コメント [y27]: コメント y24 を参照。

現時点では、2 を正しい答えとしている。これだけ科学技術が進歩しているのだから、(たとえば、DNA 鑑定の精度が上がるなど)昔は認知できなかった犯罪に気づけてもおかしくはない。別の可能性を否定する根拠として、実際にこんなに大幅に犯罪が増えたならば、生活における環境・危機感・治安ともに変化するはずだが、大きな変化は感じられず件数増加の深刻なニュースもなく、日本は相変わらず治安のいい国として認識されているということ を挙げる。

コメント [y28]: どうして役立つのか、もう少し詳しく書いてくださいね。

コメント [y29]: これは犯罪を認知するための技術ではなく、犯人を特定するための技術です。

まずは、犯罪件数が実際に増えたのかどうかを確かめ、「桶川ストーカー殺人事件」及びそれに対する警察庁の通達「犯罪等による被害の未然防止活動の徹底について」をよく調べてみる必要がある。

コメント [y30]: 良い着眼点の一つです。あなたの主観ではなく、「人々の治安についての実感」についての調査もありますから、それを調べてください。ただし、その「実感」は、犯罪報道などによって容易に影響されるので注意が必要です。

コメント [y31]: コメント y4 を参照。

私は 2 の、警察が犯罪を認知するようになったという解釈を採用する。

現時点では、レポートに必要なデータを調べることはできていないが、グラフに山ができていく年代に、以前と比べて警察の犯罪認知に何か変化が生じた可能性があるので、当時の社会や警察の動きについて調べる。また、ヒントとして挙げられていた 1999 年の「桶川ストーカー殺人事件」に対する警視庁の通達からも、グラフとの関連性を考察し、グラフの山が警察の犯罪認知数の変化によるものだという根拠を立てて説明したい。

コメント [y32]: 具体的にどのようなデータを調べるのですか？

また、実際に犯罪の数が激増したのではないということを示すため、認知されていない犯罪についても調べる必要がある。

コメント [y33]: コメント y4 を参照。

「犯罪等による被害の未然防止活動の徹底について」によると、警察にとっては犯罪とは明らかでない事案についても、被害の防止を徹底するようにすることが書かれている。そのため犯罪認知件数が増加した理由はストーカー殺害事件をきっかけに、被害届を積極的に受理するようになったことであると考えられる。さらに、増加した犯罪の内容を調べる。犯罪認知件数が増加した時期の犯罪発生件数を調べる。また犯罪認知件数が減少した理由を調べる。本当に犯罪が減少しているのか、認知数が減っているのか。

コメント [y34]: コメント y4 を参照。

反対意見が誤りである根拠として、本当に犯罪が増加していたのか当時の犯罪数の統計を調べ、認知犯罪数と比較する。

○グラフがなぜ山のような形になったのか

・1999年からの急上昇の理由:実際に犯罪が起こった件数はそれほど増えてはいない(私の仮説であってデータはまだ見つけていない)が、警察が犯罪を認知する件数が増えたから。

・ピーク後の減少の理由:まだ調べていない

1 このテーマが社会的に重要である理由

私は2の「警察が犯罪を認知するようになった」を採用する。

2 自分の仮説→「警察が犯罪を認知するようになった」

・Wikipediaによると、「1999年の「桶川ストーカー犯罪事件」の発生が契機となり、2000年に「ストーカー規制法」が制定された」(注1)からである。

・すなわち、「ストーカー規制法」が制定されたことでより警察による取り締まりが強化し、犯罪認知件数は増加したということである。

3 反対の可能性→実際に犯罪が増えた

・警視庁の刑法犯の認知・検挙状況の推移のグラフ(注2)を見ると、2003年ごろ、犯罪認知件数が増加した一方で、検挙人数、検挙率は低下していることがわかる。

・このことから、警察による犯罪認知件数は増加したが、実際に犯罪が増加したとはいえないのではないか。

4 結論

・私は、2の「警察が犯罪を認知するようになった」が正しいと考える

《調べるべきこと》

・実際に犯罪が起こった件数の統計

・犯罪認知件数が減少した理由、根拠

1. ウィキペディア「桶川ストーカー殺人事件-Wikipedia」, <http://ja.wikipedia.org/wiki/2017/06/04> アクセス

2. 警視庁「h24hanzaizyousei.pdf」, <http://www.npa.go.jp/toukei/seianki/h24hanzaizyousei.pdf,2017/06/05> アクセス, pdfファイル14ページ

構想

2を選択する

2の根拠として桶川ストーカー事件をあげる

2の反対意見として犯罪件数が増えていないということを示すデータをあげる

新たに認知され、取り締まりが強くなった犯罪を除く、従来の犯罪件数のデータをあげる

調べなければならないこと

桶川ストーカー事件の全容

コメント [y35]: コメント y4 を参照。

コメント [y36]: コメント y18 を参照。

コメント [y37]: すべての犯罪の検挙率が低下したわけではありません。検挙率が低下していない犯罪には、どんなものがありますか？

コメント [y38]: なぜ言えないのか、もう少し詳しく説明してくださいね。

コメント [y39]: コメント y4 を参照。

コメント [y40]: どのようなデータを示せばよいでしょうか。

警察が何を犯罪として認知し、認知していないか

ある事件の認知に至るまでの時代背景・状況

殺人及び強盗の犯罪件数

主要な犯罪とは何か

既に調べたこと

犯罪件数の増減の理由(社会学の基礎において)

コメント [y41]: ?

コメント [y42]: コメント y14 参照。

犯罪認知件数のグラフを考察することが社会的に重要な理由は単にグラフに表されている数字だけを受け止めることではその数字の隠された本質が分からず誤った認識をしてしまうからである。そして、私はどうしてグラフに山ができたか考察するために警察が犯罪を認知するようになったという解釈を採用する。すでに調べたことは犯罪認知件数が急激に増加した原因は 1999 年 10 月に起きた桶川ストーカー事件でストーカーされている女性が被害届を出していたが警察が事件として扱わなかったことにより女性が殺害されてしまったことが影響しているということである。また調べなければならないことはどうして犯罪認知件数の山が 2003 年辺りから急激に減少したのかということである。

コメント [y43]: どういう本質ですか？

コメント [y44]: 何についてのどういう認識ですか？そのように誤認すると、どのような社会的な不都合が生じますか？

コメント [y45]: 具体的に、何を調べましたか？

起

- ・データを都合よく解釈しない。
- ・データの都合のいい解釈を語るものに騙されないようにする。

以上の二点からテーマの重要性を説く。

解釈は 2 を採用する。

承

解釈 2 の正しい理由について

- ・1999 年、「桶川ストーカー殺人事件」について、警察の公式の声明を調べる。
- ・犯罪認知件数が減ってきた 2003 年~2007 年の警察の公式の声明を調べる。

この二点を挙げて説明する。

転

解釈 1 が間違っている理由について

・警察の犯罪認知体制が変わろうと変わるまいと犯罪と認知せざるを得ない凶悪犯罪(殺人等)の認知件数の推移を調べる。

- ・「桶川ストーカー殺人事件」以前に警察が受理しなかった被害届の数の推移を調べる。

この二点を挙げて説明する。

結

「起」であげた二点に加え、統計を盲目的に信じないこと、統計的な変化の背景となる

コメント [y46]: コメント y1 を参照。

コメント [y47]: 警察も、自分たちに都合の良い解釈をすることがありますから、鵜呑みにしてはいけませんよ。

コメント [y48]: 良い着眼点の一つです。

コメント [y49]: そんなデータがあるのですか？もしあれば、今回の課題を考えるうえで良いデータになりますね。

原因について考えることの重要性を主張する。

犯罪認知件数の増加と桶川ストーカー殺人の関連について

起 実際の犯罪増加数は増えていない。

しかし認知件数が増えている状況が続いてしまうと **本当に解決しなければならない事件** が埋もれてしまう。

承 2 桶川ストーカー殺人の関連。

警察がストーカー行為を犯罪として認知しなかったため該者は殺害される。

多くのバッシングが寄せられた。

それに対処するために警察は犯罪の認知を増やしたと考えられる。

(桶川ストーカーの事件は社会学の授業で取り扱った)

転 1 が間違いの理由。

(逮捕数のグラフを調べる)

実際に犯罪が増えたというより、監視カメラなど機器の発展により事前認知が増えた可能性

結 2 が理由で犯罪認知の増加。

調べる必要があること

警察が犯罪認知をする基準

2003 年以降減少傾向の理由(認知の基準を厳しくした?)

桶川ストーカー殺人事件の詳細

桶川ストーカー殺人以降の犯罪認知増加によるメリット(犯罪は未然に防げるようになったのか?)

関連本

今回私は山口先生の課題を選択した。この課題における重要な点は急激な数値の増減の原因である。その手がかりとなるのが注意事項にある「「犯罪認知件数」とは、「犯罪を警察が認知した件数」のことで、「実際に起こった件数」ではない」。というところである。警察も完璧な組織ではなく、**彼らの捜査**にも限界があるため実際に起きた事件をすべて把握しきれないのだろう。その事実をベースにその一定数把握しきれなかった犯罪が桶川ストーカー事件による世論の批判をきっかけにストーカー等も捜査対象に含まれた。そしてその徹底的に行われた捜査が議題にあった 1999 年頃から 2003 年の犯罪統計グラフにおける山の原因であるとなげ。以上が現時点で私の練った **構想** である。

コメント [y50]: そういう事件については、おそらく警察は通達があるうがなからうが捜査しています。

コメント [y51]: 「認知」と「捜査」は違いますから、注意してください。

コメント [y52]: 仮説 1 が間違っている理由について考察してくださいね。

山口先生のレポート課題

1)・このテーマが重要である理由

犯罪が認知されやすくなっただけで実際の犯罪件数は減少しているというように一つのグラフを見ただけでは社会の状況を理解できないから。

・2 警察が犯罪を認知するようになった、を採用する。

2)・2 が正しい根拠

3)・1 実際に犯罪が増えた、が誤りである根拠。

認知件数が増えた≠犯罪が増えたである。なぜなら桶川ストーカー事件の影響により被害届を受理する傾向になり認知件数が増えただけで犯罪数が増えたわけではないから。

・桶川ストーカー事件

1999年10月に桶川駅で起きた事件の被害者は元交際相手に関する嫌がらせの被害届を出していたが警察が事件とした処理せず女子大学生が殺害されてしまった事件。これを契機にして2000年にストーカー規制法が制定された。

・街頭犯罪の認知件数の削減

2003年から警察評価における数値目標として設定された。車上狙いや自転車・バイク盗などの対象や手口がわあかりやすいものの防犯対策が取られた。

・認知件数 犯罪の発生が認知された件数

・検挙件数 警察で事件を送致、送付または懲戒処分した件数。

・暗数 暗数=全犯罪-犯罪認知数

参考文献・ウェブページ一覧

樋口直人,「逸脱と犯罪-犯罪と犯罪統計の社会学」

浜井浩一,「なぜ犯罪は減少しているのか」,

https://www.jstage.jst.go.jp/article/jjscrim/38/0/38_KJ00008952449/_article/-char/ja/ ,
2017/06/042017/06/04 アクセス

今回1999年ごろから「刑法犯認知件数」が急上昇して2003年頃にピークを迎えてその後急落していることについて、まず1 実際に犯罪が増えたのかどうかを考える。というテーマをメインにして考察していこうと決めている。そのために調べることは、1999年頃からの認知数と犯罪数が増えたのかどうかを比較するに等しい資料を調査することが必要だ。例えば、認知件数と検挙件数の推移などから、本当に犯罪だけが増えているかを図ろうと考えている。認知件数と検挙件数が比例して増加しているのかどうかなどにより犯罪の増加は本当かどうかを考えたい。また、1999年に発生した桶川ストーカー事件と認知件数などの関係性があるのかどうかにも調査したい。そして、仮に関係性があると考えられた場合はどのような関係性があるのかなど、内容や理由も考えて行きたい。そして、どうしてまた、認知件数は急落していったのかなど、その時々背景も調べられる限り調べて関連づ

コメント [y53]: だれが理解できないのですか?それがどのような社会的不都合を生じますか?

コメント [y54]: このことをどうやって示すかが問題です。

コメント [y55]: コメント y18 を参照。

コメント [y56]: ここからどうして「実際の犯罪の発生件数」が推定できるのか、説明してくださいね。

けて考察していこうと考えている。

犯罪認知件数が上がったからと言って、本当に犯罪が多く起こっていたことになるのだろうか。社会の傾向などによって、実際に起こっていることとその統計の間に大きなずれが生じると、**本当は何を対策すべきなのか、社会の課題がわからなくなる。**

コメント [y57]: 良い着眼点です。

私は2の案を採用する。

犯罪はその行為自体が犯罪なのではなく、警察によって認知されて初めて一つの犯罪となる。この統計は犯罪を認知した数の統計である。警察が犯罪を取り締まることに力を注げば、実際に起こった事件の数は変わらなくても、犯罪認知件数は上がるのではないか。

しかし、警察の方針は変わっていても、**実際に事件が多く起こっていた**としたら、その分認知件数も上がるのではないか。

コメント [y58]: コメント y4 を参照。

・犯罪は急に増加することがあるのか調べる。

犯罪認知件数のグラフの形が変化した可能性として、私は2「警察が犯罪を認知するようになった」と予測する。

なぜなら、急激に実際の犯罪件数が増えることの**目立った根拠**が2001年から2003年の間に見当たらないからである。一方、犯罪認知件数における犯罪というのは警察が手続きを行って初めて認知されるため、彼らが手続きを行ったか行っていないかで犯罪の認知件数が変動する可能性が大いにある。

コメント [y59]: 具体的にどのような根拠(理由)でしょうか? データを示してくださいね。

そして、この手続きには警察の被害者からの被害届受理数が大部分を占めているのではないかと私は推測する。なぜなら、被害届にはストーカー行為や脅迫行為など犯罪と断定し難いものが含まれているからだ。

ゆえに、私はこの推測から**「被害者の被害届提出件数」と「警察の被害届受理数」**のデータを比較して犯罪認知件数のグラフの変化を分析したい。また、犯罪認知件数が増えているということは被害届の受理数も増えたということだと考えられる。ではなぜ2001年から2003年の間は被害届の受理数が多く、その他の期間は少ないのかということに着目し、警察の犯罪認知の仕組みについて言及したい。

コメント [y60]: コメント y49 を参照。

私は2の解釈を採用する。その根拠として、現時点で調べたことを述べる。1999年に桶川ストーカー殺人事件が起こった。被害者の両親は、上尾署に被害届を提出し、署では事情聴取などを行ったが、民事不介入などを言い訳をして事件であると認めなかった。しかし、被害者が殺害されてしまい、警察の捜査のずさんさが明らかになった。警察は信用を無くし、謝罪をすることになった。警察の信用を取り戻すために、今まで事件として採用

していなかったことまで事件として採用するようになった。この事件の影響で、国会でストーカー規制法が創設され、また、警察が民事不介入の原則にとらわれないようにという提言が発表された。以上のことにより、犯罪認知件数が増加したと仮定する。

これから、調べなければならないことは、1の解釈が正しい、間違いである根拠、実際に事件数が増えたのかどうか、桶川ストーカー殺人事件の後警察の制度がどのように変わったのか、また警察が民事介入することによって社会にどのような影響を及ぼしているのかである。

1) 〈このテーマが重要である理由〉

どのように統計が作られているかを理解することで、統計を鵜呑みにしないようにするため。

〈解釈 12 のどちらを採用するか〉

2

2)自分の仮説を支持する根拠

当時の警察が、ストーカー被害にあった女性が警察に被害を訴えたが取り合ってもらえず結局ストーカーに殺されたという桶川ストーカー事件によって、以前は受け付けていなかった対人関係のトラブルの事件も受け付けるようになったため。(ストーカー、DVなどの犯罪を認知するようになった)

3)別の可能性を否定する根拠

実際に犯罪は増えているのではないかと

→増えていない。

→増えていると感じるのは、メディアによって犯罪が露わになった結果一般人の犯罪に対する不安が増加したため。

4)結論

刑法犯認知数の統計のグラフが一時期増加したのは、実際に犯罪が増加したのではなく、警察が新たな犯罪を認知するようになったからである。

調べたこと

・警察の犯罪認知数の統計が増えているように見えるのは、認知されていない犯罪という暗数が露わになっただけである。

- ・統計は必ずしも事実を示すとは限らない。(調査漏れがある場合もある)
- ・警察の統計は警察が作る。統計が恣意的なものである可能性がある。
- ・桶川ストーカー事件後の警察の動向。

今後調べること

- ・昭和以前の犯罪の統計および統計が作られた当時の背景。
- ・警視庁のほかの統計データ調査および比較。

コメント [y61]: どのようなデータを示せばよいでしょうか？

コメント [y62]: コメント y1 を参照。

コメント [y63]: これをどのようなデータで示すのが問題ですね。

コメント [y64]: どんな統計を、何の目的で調べますか？